

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年8月17日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101664
法人名	医療法人 三愛会
事業所名	グループホーム温もり・宇宿
所在地	鹿児島県鹿児島市宇宿一丁目4番14号 (電話) 099-814-7600
自己評価作成日	平成30年7月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成30年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成29年9月に開設した、改装型のグループホームで、宇宿町の旧街道沿いに位置している。近くには、公共交通機関の駅や停留所があり、交通の利便性が高く、ご家族の方々が訪問しやすい環境にある。人材育成に力を入れ、年間研修計画を立て、毎月の内部研修を実施しており、法人内の合同研修や外部研修に職員が交代で参加し、伝達研修を行っている。また、資格習得やキャリアアップに向けた取り組みを行っている。医療法人を母体とした運営においては、同一建物の一階に在宅支援診療所併設している他、訪問看護ステーションとの連携で、看護師による日常的な健康管理を行い、安心して過ごせる環境を整えている。

○ ホームは、旧谷山街道に接し、会社や商業施設、住宅等が密集した利便性の高い地域のビルの2・3階に平成29年9月に開設されており、階下には同法人の居宅介護支援事業所、協力医療機関が設置されて日常的に密な連携が図られている。

○ 管理者及び職員は、地域密着型サービスの意義を踏まえた「あったかいハートで最高の温もりをあなたと地域へ」の理念に掲げ、「安心できる環境整備」を本年度の目標にして、利用者の誇りや尊厳を大切にしながら思いや意向の把握に努め、利用者が生きがいのある日々を過ごせるように工夫を重ねながら取り組んでいる。

○ 地域との交流については、夏祭りの見学や日頃の散歩、買い物時の会話、サマーボランティアの受け入れ、友人知人の来訪等に積極的に取り組んでいる。また、地域の一員として自主企画した清掃活動を実施しているが、さらに充実した交流を図るために自治会への加入を地域に申し出ており、回答待ちである。今後は、地域の行事への参加機会を増やす取り組みを検討中である。

○ 管理者は、日頃の職員とのコミュニケーションの中で信頼関係や協力体制の構築に努め、意向や要望等を把握して業務の改善やサービスの質の向上を図っている。また、職員のスキルアップを図る研修の実施や日頃のケアの中で助言・指導に努めると共に、勤務シフトの作成や外部研修の受講には可能な限り本人の意向を反映するなど、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。また、職員の資格取得については法人が支援する体制も整備され、バックアップに努めている。

2階

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼、職員会議時に職員で理念の唱和を行っている。業務やケアで違いがある時は理念に沿って考え、実践するように努めている。来館者にも理解してもらえるようにしている。	開設時に作成した、地域密着型サービスの意義を踏まえたホームの理念を、基本方針と共にリビングに掲示し、職員会議や毎日の朝礼時に全員で唱和して共有を図っている。また、申し送りや職員会議、カンファレンス時に、ケアの振り返りや意見交換を行って、理念に沿った支援の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の店に入居者様と買い物に出かけ、地域の方との交流を図っている。またホーム周辺の清掃活動を行い、地域の一員として、日常的な交流を大切にしている。今後は、地域の行事参加を積極的に行っていく。	地域の一員としてホーム周辺の清掃活動に取り組み、地区商店街の夏祭りの見物や周辺の散歩、買い物、通院時に地域の人々と挨拶や会話を交わし、高校生のサマーボランティアや家族、友人知人の来訪も積極的に受け入れている。自治会への加入を申し込み中で、今後は地域の行事への参加機会を増やす取り組みを検討中である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議で日常の活動状況の報告を行っている。 今後、地域での研修や啓発の場に職員が良き地域住民からの相談事にのれるような環境を整えていく。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回運営推進会議を開催し、家族の要望や地域との関わり方や役割など、活発に意見交換し、サービスの質の向上に活かしている。	会議は利用者、家族代表、民生委員、長寿あんしん相談センター職員、法人の介護統括室職員等が参加して定期的に開催している。ホームの現況や行事、ヒヤリハット事例等の報告を行い、委員からは利用者のケアに関する質問や地域の情報等の意見が出されている。内容は議事録で共有し、職員会議等で検討してサービスの向上に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターや市の担当者とも制度等について相談や連絡をし連携に努めている。入居者様のサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。	長寿あんしん相談センター職員には、運営推進会議に出席してもらいホームの実状の理解を得ている。市担当職員とは介護保険更新や開設前、開設直後に、ホームの運営や利用者のケアに関わる相談等を行って助言・指導を頂くなど、協力関係の構築に努めており、介護相談員の受け入れも予定されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日々の業務に追われ、気づかない内に言葉を遮断したり、気持ちを押しさえつける等、入居者様を抑圧していないか互いに注意している。 勉強会を行い、職員の共通認識を図っている。	「身体拘束廃止マニュアル」を整備し、計画的な研修の実施や、リビングに身体拘束排除の取り組みを掲示して共通の認識を図っている。日常的に利用者の尊厳やプライバシーを大切に言葉づかいやケアの方法を話し合っており、拘束のないケアの実践に努めている。外出したがる利用者には一緒に散歩や寄り添いに努めて安全を確保するなど、拘束のない自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングを行い理解浸透や尊厳に向けた取り組みを行っている。心理的虐待など職員が自覚がない虐待の危険性について特に認識するように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会を開き職員の理解に努めている。管理者が主に対応しているので、全職員が理解しているとは言い難い。今後、知識を深めていくように努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間をとり、丁寧に説明している。特に事業所の考え方や取り組み、退居を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。また、家族の相談や個別の相談に応じながら一方的にならないように心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時に、ご家族に意見を頂く場面も作っている。また、意見箱にて随時意見を表せる環境作りに努めている。面会時には日々の変化など細かな事も報告し、良い関係作りに努めている。	利用開始時に利用者や家族から要望等を聞き取り、入居後は利用者の意見や思いを日常会話や表情、仕草等から把握に努めている。意見箱を設置すると共に家族とは面会や運営推進会議、ケアプラン見直し時、電話等で気軽に意見を出して貰い、職員全員で対応を検討してサービスの改善に取り組んでいる。的確に意見を把握するためにアンケートの実施等を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議や個別面談で様々な相談を聞いて対処している。また、カンファレンスを行い、疑問やわからない点は全職員が把握できるように伝達ノートや記録物で報告している。	管理者は日頃より話しやすい雰囲気作りに努め、業務の中や職員会議、個人面談等で業務に関する意見や要望、個人的な悩み等を把握し、協議しながら業務の改善やサービス向上に繋げている。外部研修の参加に向けた勤務シフトの調整を行うと共に、スキルアップ研修や資格取得に対しても積極的にバックアップする等、働きやすい職場環境の整備に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	全職員、年間の目標を立てて仕事にやりがいを持てるように支援している。向上心を持って働けるように、職員の疲労やストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を職員のレベルに応じて、参加し知識を深めるように推進している。月に1回内部勉強会やその度必要なケアに関し、外部から講師を招いて全職員が理解できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所や他グループホームへの研修、事例検討を通して事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしている。形式的な交流の為、日々のサービスや職員育成に役立つ交流になるように連携を図っていく。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族、各関係機関等に話を聞いて、事前にホームの状況を確認の上、決定するように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に聴き取り調査を行い、ホームを確認して頂き、決めて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の現在の状況を伺い、他サービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状況、状態に合わせ、日々の生活に近い形で表現できるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からのご要望に対し、話を聞いて関係作りができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人の今まで築いてきた関係に対し、途切れる事なく継続できるよう支援している。	入居前の生活状況や馴染みの情報を「アセスメントシート」で共有している。家族や友人の来訪時にはゆっくり過ごせるように配慮し、電話や手紙の取り次ぎに努め、本人の希望に沿って散歩や買い物、整髪、一時帰宅、墓参り等を家族と協力して支援している。遠方の家族には、「温もりだより」等で利用者の状況を伝えるなど、馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの席など、入居者様同士で会話できるような環境作りをしている。日常の会話の中に職員も入ることによって、孤立する方が出ないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も介護サービスの利用についての相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に入居者様や家族に生活歴や思いを聞き、24時間シートを作成し家での生活が継続できるように、支援すると共に、日々の会話で把握に努めている。	利用者の思いや意向を、日頃の関わりの中で理解に努め、申し送りや職員会議等で共有して、本人主体の最善のケアとなるよう取り組んでいる。その人らしい生活が過ごせるように、生活習慣に配慮し、衣服の選択、趣味、レクリエーション等の取り組み等、可能な限り希望に添って個別の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	定期的なカンファレンスを行い、本人の昔を知っている、ご家族からの情報収集、医療機関等の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	多職種を含め現在の様子、状態を話し合いその方に合わせたケアをして行くよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて医師、看護師、施設長、介護職員、本人、家族との話し合いの場を設け、現状に即した介護計画を作成している。	本人及び家族の希望や主治医の意見、助言等を把握し、日々の記録やモニタリングでの意見を基に、具体的で解りやすい介護計画を作成している。ケアの状況は「個別記録」「業務日誌」「健康管理表」等で共有し、本人主体のケアの実践に努めている。定期的な見直しに加え、状態変化時には計画の修正を行うなど、実状に即した支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別での情報共有ノートを作り、全職員、情報を共有できるようにしている。身体の変化、入退院などの変化に応じて、介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な病院受診や急な受診の時などには、家族と連絡を取り状況に応じた対応をしている。他科受診などは往診等の利用をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物を通して、地域の方との交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段の状況をパソコンに記録し、医療機関との情報を共有し、他のかかりつけ医へもケア記録を持参し、情報の共有に努めている。	利用者毎に病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受療を支援している。入居中の利用者の殆んどが同ビル一階の協力医療機関を主治医としており、早期対応が可能で、訪問看護や歯科の訪問診療も実施して、利用者及び家族の安心に繋がっている。また、他科への通院は家族と協力して支援しており、家族とは密に連携を図っている。病状や受診結果は「個人記録」等で情報を共有し、医療機関にはケア記録で情報提供する等、連携体制も構築されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護師が来所する他、病状変化の場合も来館されている。また職員も利用者様の体調や些細な表情の変化をに逃さないように早期発見に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お互い情報を提供しあい、電話や日々の記録などで情報を交換し早期退院に努めている、		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で終末期についての勉強会を行い、医師、看護師を含めてカンファレンスを行っている。	重度化や終末期の対応は「看取りに関する指針」を整備しており、入居時に本人や家族に説明して理解を得ている。利用者が重度化した時点で、主治医から病状が説明され、職員や関係者、家族は十分な話し合いを実施して、ホームとして可能な限り希望に添った支援を、家族と協力して取り組んでいる。これまで2件の看取りを実施しており、その都度、振り返り等を行って、スキルアップを図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故報告書を見つつ、職員間での話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームの防災計画に基づき行っている。 また、定期的に避難訓練を行っている。	火災や風水害、地震、津波を想定した「非常災害マニュアル」を整備し、消防署の協力を得て年2回夜間も含む通報、避難、消火の訓練と、消防職員による災害に関する講話や消火器、AED等の取扱い研修も行われている。職員は、報道された災害事例を基に意見交換するなど、日頃から災害対策への認識を深めている。スプリンクラーや自動通報装置等の設置や連絡網が整備され、避難用具もリストを作成して整備し、災害発生時の保存食や水等は法人本部で3日分保管している。災害発生時の地域との協力体制の充実を課題としている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や生活歴に伴い、羞恥心を伴う排泄や入浴に関しては、配慮した声掛けや支援を行っている。	プライバシーの確保や個人情報保護については研修の実施で周知を図り、人格の尊重に配慮したケアの実践に努めている。特に居室への入室や排泄・入浴・更衣等のケアに際しては、尊厳を傷つける言葉や対応を行わないように配慮しており、居室やトイレ、浴室等はプライバシーが確保された構造になっている。また、ホームの情報紙への掲載や、居室の名札設置の可否については、入居時に意向を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを日常生活の会話から引き出せるようにしている。 また、自己決定が表せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のご意向に考慮し、自由に暮らして頂けるよう配慮している。レクリエーション等の参加の有無を確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	寝る前にはパジャマに着替えてもらい、起きた時には、整容を行いその方に合った服を着て頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ってもらったり、片付けを職員と一緒にしている。	3食とも主食と汁物はホームで調理、副食は外部に委託しており、委託先にて形態や栄養バランス、季節感等に配慮したメニューを作成している。おせちや節句、敬老の日等の行事食や手作りのおやつ、漬物等、食事が楽しみなものになるよう工夫し、食材の下処理や食器洗い、テーブル拭き等は利用者も楽しみながら行っている。今後、徐々にホームでの調理を増やすことを検討している。利用者毎に食事の摂取量や水分補給、服薬等を把握し、口腔ケアもプランに沿って適切に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主菜は外部でカロリー計算がされており、栄養バランスは摂れている。食事量や水分量は、その都度、記録し、摂取しやすいように刻んだりろみをつけたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており、ご自分で出来る所はしてもらい仕上げを職員が行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間ごとに声掛けやトイレへの案内を行っている。	健康管理表」により利用者毎の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援しており、食事の摂取状況や水分補給、運動等も個々に把握しながら便秘の予防にも取り組んでいる。支援に際しては、羞恥心や不安感に配慮し、利用者の身体状況に応じて介護用品の工夫や支援方法等を介護計画に反映させて改善に努めており、失禁の減少やおむつからリハビリパンツでの対応が可能となるなどの成果が見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最終排便日の確認を行い、乳製品を取って頂く。排便が出ない時は、下剤を服薬してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴が苦手な方、入りがたらない方へ対しては、声掛けを工夫したり、その日の入浴者を仲の良い人と組むなどして、気持ちよく入浴していただけるように配慮に努めている。	排泄の失敗等には即時に清拭や入浴で清潔を保っている。時間や温度等は希望に添って柔軟に対応し、ゆっくりと入浴を楽しめるように配慮しており、入浴を渋る利用者には無理強いしないで、時間や声掛け等を工夫して本人の意欲を待って支援している。入浴後の水分補給や皮膚疾患の手当等も利用者の状況に応じて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の方の予定や疲れ具合を見て、声をかけるようにしている。夜間帯、眠れない方もいるので細目に声掛けを行い、原因を取り除けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に服薬に関する勉強会を外部に協力してもらっており、把握に努めている。服薬時は、職員二人で日時、名前の確認をし、しっかり服薬できているか確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳まれたり、食器洗いや台拭きなど、それぞれ出来る事を無理のない範囲でされている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日などは、一緒に買い物に出かけ好きなお菓子や食品を買われたり、近くの公園へ散歩に行き、地域の方との交流に努めている。	利用者の外出への意向は日常の関わりの中で把握し、希望に沿って散歩や買い物、通院、一時帰宅等の外出を家族と協力して支援している。また、ホーム全体でも初詣や季節の花見、地域の夏祭りなどの外出を計画して利用者の気分転換を図っている。今後、外出の回数や方法等、充実した取り組みを検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、家族よりお金を預かり事業所が管理している。必要な物がある時は預かっているお金の中から買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族などに電話しやすい雰囲気作りや会話が他の入居者様に聞こえないように電話の設置場所を工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけなど四季を感じられる物や、今日の日付がわかるようにしている。	リビングの一角にキッチンが設けられ、テーブルセットやテレビ等が利用者の動線や利便性を考慮して配置され、随所に利用者の作品や写真等が飾られて和やかで落ち着いた雰囲気となっている。廊下には休息や談笑の場になるよう椅子が配置され、各居室入口やトイレなどは利用者が迷ったりしないように明示され、清掃や整頓、空調、異臭、衛生面にも細かに配慮して気持ちよく過ごせるよう環境整備に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは少し狭い為、色々と考えながら入居者様がくつろげるように工夫している。入居者様同士、仲の良い方が隣にするなど工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様、家族と話し合い、今まで使用してきたものや思い出の物など置くようにしている。	フローリング仕様の居室は明るく落ち着いた雰囲気、エアコン、ベッド、整理ダンス、洗面台が整備されている。利用者の意向に沿って整理整頓等を支援し、安全で快適な生活の維持に取り組んでいる。利用者は、使い慣れた寝具や家族写真、小物等を自由に持ち込み、自身の作品も飾って、その人らしい和やかで居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境に向け、動きやすい環境を目指し取り組んでいる。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない